

白山（2702m）と前哨戦：高山不動・入笠山&米山

齊藤 整紀

高山不動～関八州展望台～黒山三滝

●2021年9月10日（金）晴れ時々曇り

●メンバー 齊藤整紀（CL）、さち子

●コースタイム

西吾野駅 11:20→高山不動尊 12:40～13:20→関八州展望台 14:00→花立松ノ峠 14:30→舗道合流点 14:55→黒山バス停 15:30（バス）⇒生越駅

村山氏の百名山達成・白山同行に臨み、訓練山行として妻と奥武蔵に向かう。久しぶりの晴天ながら登山客は少なく、西吾野駅は我々だけ。

朝の家事を済ませてからのこと、歩き始めが11時過ぎである。河原に咲く彼岸花を眺めて、石標の橋から入る。暫く雨が続いたせいか、径は全般に、濡れて、荒れている。休憩なく高山不動に到着、長い石段の上の本堂脇にある休憩所で遅い昼食を摂る。その間に3グループが参詣。境内の大銀杏や楓は未だ青々としているが、その上の関八州展望台のススキは秋を告げている。遠くは夏雲ながら、ますますの眺望である。

展望台から黒山三滝方向へ下りる。急坂の木の根に注意し慎重に下る。花立松ノ峠の舗道に出て、左折、少し先で黒山三滝方面下山道に入る。ススキが行く手を阻む。樹林帯に入ると水を含んだ滑りやすい道に変わる。舗道に出た後は30分ひたすら下り、バスの人となり、生越駅から帰宅。正味4時間弱のトレ山行は人目を憚ってのスニーカー、ノーストックながら無事に済んだ。

入笠山（1955m）

●2021年9月14日（火）曇り

●メンバー 村山隆（CL）、かずい（村山夫人）、齊藤整紀、さち子（整紀妻）

●コースタイム

葛西 6:30（村山車）⇒沢入P 10:20→入笠湿原 11:20→入笠山 12:00～30→沢入P 14:20（車）⇒日帰り入浴「ゆーとろん」（車）⇒葛西

白山登山者全員の合同トレ山行である。前日の雨の影響か、山の雲は厚い。平日のこと、車は順調で、双葉SAにて休憩後、入笠山域に入っても対向車もなく、難なく沢入駐車場へ到着。駐車場はかなり余裕がある。村山夫妻は、ダブルストックの不調で立ち上がり出遅れたが、我々は先週の二人だけのトレ山行が奏功、順調である。

入笠湿原は帰りにして、まっすぐ山頂へ向かう。マナスル山荘からは、お花畑ルートも帰りにして、登山道を直登、予定通り正午に山頂到着。広い入笠山頂にはススキの穂がたなびき、秋の景色に囲まれ、いくつかのグループがお弁当を楽しんでいる。南アルプス北部連山やハケ岳は、時折、雲間から望む程度で、スッキリしない。

帰りに回ったお花畑や湿原は団体客もいたが、程よいデスタンスで花を愛で、ハイクを楽しみ、4時間の無難なトレ山行を終えた。

白山・御前峰（2702m）

●2021年9月19日～21日

●メンバー 村山隆（CL）、かずい、齊藤整紀、さち子

●2021年9月19日（日）晴れ

●コースタイム

葛西 8:30（いっか）⇒（中央道～高山）⇒20:20 白峰温泉・春風旅館（泊）

レンタカーの開店に合わせての出発で、ゆったり時間になった。しかし、土曜の昨日は大荒れの悪天であったが、一変、今日は快晴となり、おまけに明日は祝日である。車がやけに多い！高井戸手前から渋滞が始まり、双葉SA辺りまで渋滞が断続、予定外の3時間遅れ。中央道から安房トンネルを抜け、高山経由で白峰温泉に行くルートであるが、高山からは道が細くなり、

山道が続く。やがて、以前、白山から荒島岳に向う時の勝山、大野、九頭竜などが逆から出てくる。このルートではなく、北側のスーパー林道、あるいは上越高速利用の方が早かったようである。

何とか白峰温泉に着いたのは18時過ぎで、外湯時限を勘案、春風旅館から、食事前に外湯の大浴場に行った。3度目の入浴である。白峰温泉は営業中の旅館は3軒に減り、6年前に松田さんらと泊まった御前荘を始め7軒中4軒は廃業に追い込まれたとのこと。コロナ禍はここにも！

●2021年9月20日（月・祝）晴れ時々曇り

●コースタイム

春風旅館 8:00（車）⇒市ノ瀬P 8:20（シャトルバス）
⇒別当出合 9:00→（砂防新道）→黒ボコ岩 13:30
→室堂・白山雷鳥荘（チェックイン）14:20～
15:00→御前峰 15:50～16:30→雷鳥荘 17:00
（泊）

朝の光で、白峰温泉街の様子がはっきりして昔が思い出される。シャンソンやイベント司会をやるという春風旅館女将の写真やSNSで盛り上がった後、シャトルバスの出る市ノ瀬に向かう。券売場やトイレの下が10年前、中森さんと野営したテント場である。今、バスに乗る人は数名ながら、駐車場は満車で、6年前松田さんらとお世話になった永井旅館のはるか下の路肩へ案内された。昨日までと今朝、多くの人々が登ったと思われる。永井旅館は南北両側に増築し大きな旅館に生まれ変わっている。

空いたバスから降りた別当出合は昔と変わらない。観光新道を左に見送り、橋を直進、砂防新道に踏み出す。すぐ樹林帯の急登が続く。径は比較的整備されているが、濡れた石が滑り易い。

中飯場で休憩。トイレもベンチも見違える程に変身！汚い昔の便所が綺麗な水洗トイレに！積極的にチップを入れる。以後、下山者が多く

なり、交わす機会が増える。甚之助避難小屋を過ぎ、黒ボコ岩までの雪溪地のジグザグ径は、今や、雪も無いが花もない。10年前の8月7日は、黒ボコ岩直下に限らず、お花畑という感じで、草叢にかなりの花が咲いていた。ところが、今や、竹等が増殖し、花は大幅に後退し見る影もない。

黒ボコ岩で一休み。平坦な径の先の弥陀ヶ原の湿原花園と歩きにくいハイマツ帯を過ぎると室堂が間近に迫り、山頂の神社が望まれる。

室堂ビジターセンターの建物に入ると、我々が泊まる雷鳥荘の案内があり、受付は左奥の雷鳥荘で行われる。ここは10年前、初めて来る少し前に完成をみたもので、造りが新しく、個室でコインシャワーも利用できる。

チェックインを済ませ、取敢えず、御前峰山頂へ向かう。とにかく今日中に百名山達成のセレモニーをやらねばならない。奥宮の鳥居を潜り、紅葉のナナカマドとハイマツの径を上る。突然「雷鳥じゃない!？」と妻の声に、私は思わず、スマホに手をやる。しかしイワヒバリであった。妻が少し遅れ気味なので、手を引いてペースを守る。果たして、16時前山頂に全員集合！百名山記念写真に入る。私のサプライズは、3m程の横断幕。村山氏はお気に入りの利尻山のタオル。夕方で他人もなく30分以上山頂を独占できた。更に、宿に戻ってから、記念刺繍の入った帽子とTシャツを贈った。

●2021年9月21日（火）快晴

●コースタイム

室堂 7:30→（エコーライン～砂防新道）→別当出合 13:30⇒（シャトルバス）市ノ瀬 14:30⇒（車）金沢へ移動

早朝、ご来光山行案もあったが、大きな目標達成後はモチベーションが下がり、ゆっくりの起床となった。センターで朝食後、下山に向かう。なお御朱印は奥宮のやっている7月から8月までのため、今は貰えない。帰路は、草紅葉

と花の弥陀ヶ原からエコーラインを辿る。黒ボコ岩経由より緩やかで気持ちが良い。あまつさえ、御嶽、乗鞍、槍・穂高連峰も！ところが、ダラダラと楽な下りを続けるうちに、砂防新道に戻る分岐を見落とし、南竜休憩所を過ぎ別山方面への道に差し掛かり、ようやく径間違いに気づく失敗。

しかし私はほっとした隙に、戻る途中、左の路肩に転倒、胸ポケットのスマホを失くしてしまった！やむなく皆の応援を仰ぎ、笹の斜面を探す羽目に。幸いスマホは見つかったが、以後は、チャックのポケットに入れる様習慣づけよう！

そんな騒ぎで、下山予定が遅れたため、途中の観光は一宮の白山神社のみにして、まっすぐ金沢のアパホテルへ向かった。ホテルの大浴場でさっぱりした後、人気の居酒屋で「お疲れ様！乾杯！」。お勧めはノドグロの塩焼き！

米山（993m）

●2021年9月23日（木・祝） 晴れ

●メンバー 村山隆（CL）、斉藤整紀、

●コースタイム

柏崎・村山氏宅 7:10→太平P 8:10→二ノ宇 9:10
→ガンバレ岩 10:00→米山山頂 10:20～50→
13:20 太平 P（車）⇒（入浴・観光）⇒村山氏宅

白山の帰りに、村山氏のご実家にお邪魔するからには、ご当地の名山・米山にも登りたい。登山に飽きた女性陣を残して村山氏と二人太平登山口へ車で向かう。JR米山駅から徒歩1時間登った所に太平駐車場がある。標高237m、山頂へ距離2.7km、2時間30分の歩程である。

三角錐の美しい山容の通り、急登続きである。土の山であり、木で階段を作り、登山道を保護している。柏崎市観光協会のご尽力のお蔭で危険箇所はない。下草も払われて、ススキが柵引く。

祝日のこと、山頂は、各登山口から集まったハイカーで賑わっている。薬師堂の前からは妙高、火打も望める。広い海景の中、北には雲が出て佐渡島が望めないのが心残りである。

奇麗で広い避難小屋でゆっくり昼食を楽しんで下山、5時間40分の歩程であった。

夜は村山家のご本家が経営するイタリアンレストランへ。外壁はシエナ色のお洒落な建物で設えは豪奢！ワインはピエモンテのリースリングをお願いした。メインの魚がノドグロ1.7kgの切り身とのこと。肉厚で、ふっくら、ジューシーで、先日の金沢の物とは全く別物。地場の食材を生かした料理も素晴らしく、久しぶりに上質なディナーを緊張して戴いた。“BUON O！”

（了）